

20-39930-0002
2020年4月10日

各地経済同友会
事務局長 各位

公益社団法人 経済同友会

専務理事 橋本圭一郎

経済産業大臣・厚生労働大臣からの要請に関するお願い

謹啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より各地経済同友会事務局長の皆さまには格別のご高配を頂戴し、誠にありがとうございます。

さて、ご承知の通り、新型コロナウイルス感染症が世界全体に拡大し、更にその長期化が見込まれています。これに伴い世界的な需要急増による医療や衛生関連物資の不足、経済活動の縮小による派遣労働者等の雇止め・解雇、新卒者の内定取り消しなどの深刻化が懸念されています。

こうした状況を踏まえ、4月7日に梶山弘志経済産業大臣、加藤勝信厚生労働大臣から中西宏明日本経済団体連合会会長と櫻田謙悟代表幹事に対して、「国内生産協力」と「雇用の安定」に関する要請がございました。この中で「特に、医療用ガウンは国内で縫製する人員が不足しており、これに対応できる企業を探している」とのご指摘がございました。つきましては、事務局長の皆さまへご連絡させていただくとともに、ガウン（医療用）や防護服（非医療用）の縫製にご協力いただけそうな各地経済同友会の会員所属企業がございましたらご紹介をいただきたく、お願い申し上げます。

現在、弊会事務局では在宅勤務体制を取っているため、本件に関するご連絡（第一報）は、E-mailとさせていただきます。

諸事ご多端の折に大変恐縮ですが、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

謹白

※本件に関するご連絡は、下記担当者までお願い致します。

(公社) 経済同友会 事務局 神山・仲村

E-mail doyukai-somu@doyukai.or.jp

ガウン・防護服の例示



サージカルガウン
(医療用)



アイソレーションガウン
(医療用)



防護服
(非医療用)

経済産業大臣・厚生労働大臣からの要請に関する報道

医療物資増産「協力を」



中西経団連会長（左奥）らに医療物資の増産を要請する梶山経産相（右奥）ら（7日、経済産業省で）

政府、経済界に要請

政府は7日、新型コロナウイルスの感染拡大で供給が滞っているマスクや人工呼吸器といった医療物資の不足解消に向け、経済界全体で増産に協力するよう改めて要請した。経済団体側は協力姿勢を示すが、規制や技術力など実現に向けた課題も多い。

梶山経産相は7日、経団連の中西宏明会長、経済同友会の板田謙悟代表幹事と会談し、「供給不足は今後も続く。世界で取り合っている」と述べ、現状ではマスクや感染防護服などが不足していると説明した。

梶山氏は、「（医療物資との）親和性の高いところのみならず、新規分野でも積極的に協力をして述べ、製造機器の供給や技術者の派遣などへの協力を求めた。同席した加藤厚生労働相も「異業種にも力をお貸

したい」と述べた。中西氏は、「医療機器はそう簡単に（いかない）、免許の問題とかもある」としつつ、「国難なので全面的に努力したい」と感じた。医療物資のうち、マスク生産には家電大手シャープが参入するなど増産が進む。トヨタ自動車も7日、医療関係者が使う「フェースシールド」の生産を始めると発表した。自動車部品の試作品を製造するための3Dプリンターを活用する。また、デンソーやトヨタ紡織などグループ企業の工場で、マスクの生産にも取り組む。一方で、防護服など人手不足で製造が進まない製品もある。また、重篤な肺炎患者に必要な人工呼吸器は、国内メーカーが数社と少ないうえ専門性が高く、新規参入にはめどが立っていないという。

(2020年4月8日 読売新聞)

2020年4月7日

関係者各位

COVID-19 医療対応のための医療従事者個人用防護具の安定供給に関する 緊急のお願い

東京大学医学部附属病院 救急科(救命救急センター・ER/集中治療部) 教授 森村尚登
大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 教授 嶋津岳士
大阪急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 救急診療科 部長 藤見 聡
日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター 教授 松本 尚
さいたま赤十字病院 副院長 清田和也
横浜市立大学市民総合医療センター高度救命救急センター 教授 竹内一郎
兵庫県災害医療センター センター長 中山伸一
北九州市立八幡病院 病院長 伊藤重彦

本日の緊急事態宣言を受けて、指定都府県による緊急措置が開始されました。現在、指定地域のみならず日本全体で COVID-19 への医療対応が喫緊の課題であり、ワクチン開発、早期発見の仕組み、治療法の開発、医療機関受け入れ態勢、集中治療など多岐にわたる領域において、まさに総力戦で各人、各組織・機関が対応しているところです。

しかしながら、医療現場では個人用防護具の圧倒的な不足に喘いでいる現況にあることは周知のところでと思います。フロントラインに立つ医療従事者の防護が不備な状態では、対応することはままなりません。今後急激に増加することが予想される状況に鑑み、個人用防護具(特にマスク、フェイスシールド、ガウン)は絶対不可欠です。特に N-95 マスクについては、危機的な不足状況にあり、このままでは医療従事者が感染のリスクにさらされ、治療を遂行することができません。

N95 の国内生産、N95 の代替具(例えば、アクリル製の患者頭部被覆箱等)などについて、大至急ご検討いただける企業や団体の方々はおられませんでしょうか。私たちは、COVID-19 の患者さんの診療の際に必要な機能を提示いたしますので、それを備えた防護具の作成と供給のご検討をお願い申し上げます。併せて行政にこのことを強く進言するものであります。

今なら間に合います。どうか皆様のご支援、ご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

連絡先

東京大学医学部附属病院 救急科・災害医療マネジメント部
東京大学大学院医学系研究科救急科学分野
森村尚登

toudaidam@m.u-tokyo.ac.jp